History of Kasai Marine Park

葛西海浜公園の歩み

東京都

もくじ

03-04	葛西海浜公園の概要
05-10	葛西沖の歩み
11-14	葛西海浜公園で見られる主な生き物
15-17	ラムサール条約
18-19	葛西海浜公園のご案内
20	葛西海浜公園での主なできごと
21-22	海上公園の紹介

上空から見た葛西海浜公園

History of Kasai Marine Park

葛西海浜公園は、天然の浅瀬や干潟を含む海域と、その中に造られた２つの人工干潟（「西なぎさ」「東なぎさ」）からなる公園です。

「西なぎさ」の広い砂浜では、夏場は水遊びの家族連れなど多くの人で賑わいます。アサリなども生息しており、潮干狩りも楽しめます。葛西臨海公園とも渚橋でつながっており、葛西臨海水族園や、ダイヤと花の大観覧車も気軽に楽しむことができます。

「東なぎさ」は、人の立入が制限された、自然環境保全のためのエリアになっています。

この冊子では、葛西海浜公園の歩み、この公園で行われている様々な活動、干潟の特徴や生き物などについてご紹介します。

参考文献

- 今よみがえる葛西沖（東京都）
- 葛西海浜公園HP（公益財団法人東京都公園協会）
- 環境省HP

写真提供

- 江戸川区郷土資料室
- 公益財団法人東京都公園協会
- 公益財団法人東京動物園協会

「西なぎさ」の賑わい

葛西海浜公園の概要

公園の位置や広さなど

葛西海浜公園は、東京都江戸川区臨海町の沖合に位置し、沖合2kmに広がる海域からなる公園です。広さは約412haあります（日比谷公園25個分の広さ）。

公園の海域には、延長約800mの2つの人工干潟（「西なぎさ」と「東なぎさ」）があります。

東京湾の地形の変遷

2億4700万年前、日本列島の大部分は海の底にあり、大陸から運ばれた土砂が海底に厚い堆積層を作っていました。その堆積層が中生代に起きた隆起により陸地となり日本列島が形作られます。

以後、列島は隆起や沈下を繰り返し、6000年前に海面の広がりが最大であった東京湾は、徐々に海面を狭め現在に至ります。

東京湾には、多摩川、荒川など大小120もの川が流れ込んでいました。これらの川が上流から運ぶ土砂が10万年の年月をかけて堆積し、広大な干潟と浅瀬の海が形成されました。昭和30年代に大規模な埋立てがはじまる以前、東京湾には、日本でも最大級の干潟があったとされています。

現在の葛西海浜公園の周辺には、荒川や旧江戸川から運ばれた土砂が堆積してつくられた、「三枚洲」や「高洲」と呼ばれる遠浅の海が広がっています。

干潮時の「西なぎさ」

昭和30年代中頃（1960年頃）まで

漁業が盛んだった時代

葛西沖の豊かな海は、古くから人々の暮らしと深く関わっていました。
江戸時代の古文書に、この地で700年前から漁業が営まれていたことが記されています。

漁業

夏場はアサリ、ハマグリなど江戸前の魚介類が水揚げされ、冬場は名産の「葛西海苔」が収穫される豊かな漁村でした。

沖合には海苔を育てる「竹ひび」と、何百艘もの船、陸には海苔干しのよしずが連なる景色が広がっていました。

昭和30年頃（1955年頃）
アサリやハマグリを採る腰まき漁

昭和29年（1954年）
海苔ひび立て

レクリエーション

葛西沖は行楽の場でもあり、春は潮干狩り、夏は海水浴、秋はハゼ釣り、冬は「すだて」と呼ばれる舟遊びで、東京一円からの観光客で一年中賑わっていました。

三枚洲と呼ばれる干潟には水鳥なども多く生息しており、様々な生き物にとっても、その生存を支える重要な場となっていました。

昭和25年（1950年）葛西の海

昭和30年頃（1955年頃）葛西浦 潮干狩り

昭和30年～45年頃

海の汚染や地盤沈下などが深刻化した時代

この頃、東京の都市化に伴う様々な課題が噴出する時代に突入します。

海の汚染

東京への人と産業の集中、工場からの排水などによって東京湾の汚染が進みました。葛西沖でも魚介類が採れなくなり、漁業が成り立たなくなりました。昭和40年には、かつて栄えた漁村は姿を消しました。

ごみの山

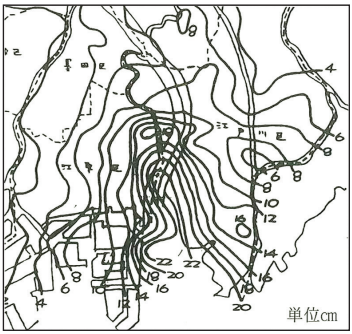
海に面した葛西地区は、高潮や台風による浸水被害も多かったため、昭和32年に延長4,450mの海岸堤防がつくられました。

防潮堤の背後地では道路や鉄道の整備も進まず、常時水が溜まった未利用地となっており、高度経済成長期の建設ラッシュで大量に発生した残土や産業廃棄物が捨てられていました。

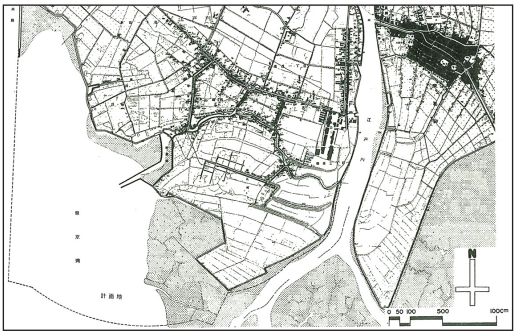
葛西沖の背後地でのごみ投棄・処分

地盤沈下

明治時代からの地下水の汲上げによって地盤沈下が進み、葛西地区では178haもの民有地が水没していました。



昭和43年（1968年）
地盤沈下年間変動量



昭和30年代（1955年頃）
葛西沖地図

昭和45年頃～平成元年頃

自然回復の取組～葛西海浜公園の誕生

昭和44年（1969年）に、東京都はこの地域の開発構想の検討に着手しました。この頃には、都市化の進展に伴う自然環境の喪失に危機感を抱く声が高まり、自然保護や公園整備などの取組が全国的に加速します。

葛西海浜公園はこういった流れの中で誕生します。

自然と調和した葛西沖開発

東京の海の埋立てが進む中で、葛西の海だけが自然の姿をとどめていました。様々な団体から、三枚洲の保全やそこに生息する生き物の保護を訴える声が高まってきました。

昭和47年、水没した土地の復元と、新たな土地の創造を行い、豊かな自然と都市機能が調和したまちをつくることを目的とする、「葛西沖開発土地区画整理事業」が始まりました。

土地区画整理により、水没していた民有地が復活するとともに、公有水面の埋立てによって348haの新たな土地が生み出され、まちの動脈となる道路や、公園・緑地の整備も進みました。

葛西海浜公園の整備

葛西沖開発の一環として、三枚洲の自然回復を目的に葛西海浜公園が整備されます。この公園は昭和55年（1980年）に本格的な整備が始まり、平成元年にオープンしました。

三枚洲を中心とする自然環境を回復・保全するために東西2つの人工なぎさが整備されました。

昭和47年（1972年） 施行前の葛西沖

平成7年（1995年） 施行後の葛西沖

現在

干潟の豊かな自然

このような経緯で誕生した葛西海浜公園では、多くの方々の取組により豊かな自然が回復しています。

東京湾の最奥に残された豊かな生態系

この干潟は、多くの野鳥をはじめ様々な生き物の生命を支えています。

毎年冬に飛来する数万羽のスズガモの群れやカンムリカイツブリは、この干潟で見られる特徴的な生き物です。このほかにも、クロツラヘラサギなど世界的に希少な野鳥や、ミサゴやトウネンなど東京都で絶滅が危惧されている野鳥が飛来しています。

スズガモの群れ

海から陸へと連続性のある干潟環境

東なぎさの干潟の背後には、広大なヨシ原が広がっており、トビハゼなどの魚類やカニの仲間の格好のすみかとなっています。また、オオヨシキリやチュウヒなど、ヨシ原を好む野鳥が多く飛来しています。

東なぎさのヨシ原

大都市近傍にある生き物の楽園

葛西海浜公園は、東京駅から電車でわずか15分。大都市の一隅で、これほど豊かな自然環境が保全されているのは世界的にも数少ない事例です。

この干潟は、東京のみならず首都圏に暮らす人々にとってとても身近な存在であり、将来にわたって多くの人々が気軽に海の自然や文化と触れ合うことができる貴重な場所になっています。

自然観察会の様子

現在

干潟での様々な活動

葛西海浜公園では、海の文化の継承や環境学習など、様々な活動も行われています。
（下記は現在行われているイベントの例です。開催時期などは今後変更される場合があります。）

海苔すき体験

地元の小学生が参加し、かつての名産「葛西海苔」を身近な海で育て、「海苔すき」を体験することで地域の歴史や環境を学ぶ活動が実施されました。（「江戸川の海をもっともっと知ろうプロジェクト協議会」）

竹ひび設置活動

竹の幹に竹の枝を束ねてくくりつけた古式漁具の「竹ひび」に、水質浄化効果を持つカキが生息することで水質を浄化する「里海里山連携プロジェクト（竹ひび1人1本活動）」がNPOによって進められています。

海水浴体験（7月後半から8月）

主に夏休み期間中に海水浴の体験ができます。この期間はNPOなどと連携し安全対策や運営を行っています。

▶ 潮干狩り

潮の干満の差が大きくなる春から初夏にかけて、潮が引いた干潟でアサリやハマグリなどの貝類を採ることができます。

※用具や採取量に制限があります。

▶ 海浜清掃（3月～11月）

NPOの呼びかけにより、3月～11月にかけて毎月1回、西なぎさのごみ拾いを行っています。

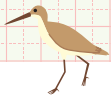
また、普段は人が立入れない東なぎさについては、5月と11月に漁業関係者や自然保護団体などの協力により船で渡り、漂着ゴミを取り除く作業を行っています。

きれいな砂浜の維持活動と併せて、干潟の魚介類、鳥類、植物の観察会も行われます。

▶ 野鳥観察会（12月・2月）

NPOとの協働により、東なぎさや西なぎさを訪れる野鳥の観察会を行っています。

葛西海浜公園で見られる主な生き物



葛西海浜公園では、120種以上の鳥類が確認されています。特に干潟環境を生息場所とする鳥類を数多く見ることができます。

春秋の渡りの時期には、トウネン、キアシシギ、アオアシシギ、コチドリといったシギ・チドリ類が多数飛来します。

毎年冬には数万羽のスズガモのほか、カンムリカイツブリの群れが飛来します。クロツラヘラサギのような、世界的にも個体数が少ない種も見られます。

春 秋 冬 …季節

トウネン

クロツラヘラサギ

スズガモ

カンムリカイツブリ

魚類など

Fishes etc.

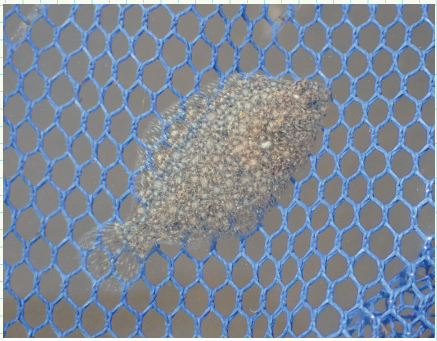
葛西海浜公園で見られる主な生き物

干潟を好む魚類や底生動物を数多く見ることができます。

トビハゼやエドハゼといった、干潟に生息する希少な魚類を見ることができます。

東なぎさの干潟を中心に、ヤマトオサガニやコメツキガニといったカニ類が多数生息しているほか、アサリ、ソトオリガイなど食用になる貝類も豊富です。

トビハゼ



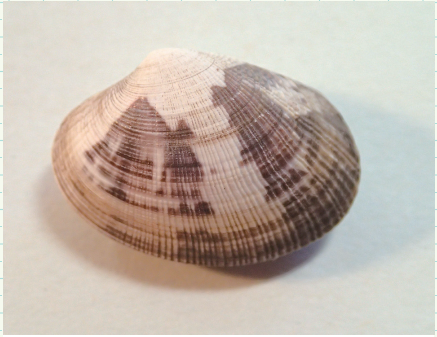
イシガレイ

ヤマトオサガニ

コメツキガニ

シタラエビ

ユビナガスジエビ



アサリ

ハマグリ

ソトオリガイ

チロリ

植物

Plants

葛西海浜公園で見られる主な生き物

葛西海浜公園では、イソヤマテンツキやハマゴウなど、海岸に生息する植物が自生しています。

また、ウラギクは塩分を含んだ湿地に生育する代表的な種です。

公園整備時には、クロマツやトベラなど、海岸の強風や乾燥に強い植物が植栽されました。

東・・・主に東なぎさで生育しているもの

テリハノイバラ

ハマゴウ

ウラギク

ヨシ

葛西海浜公園は東京都で初めてラムサール条約湿地に登録されました

葛西海浜公園のラムサール条約湿地の登録

葛西海浜公園の干潟は、広大な干潟環境が保全され、人々の様々な営みが豊かな自然と共存していることなどから、平成30年（2018年）10月に国際的に重要な湿地であるとしてラムサール条約湿地に登録されました。

都内では初めての登録であり、東京都では、これからも地域や公園利用者の皆様とともにこの干潟を守り、持続的に活用する取組を進めていきます。

葛西海浜公園は９つの国際基準のうち、
次の**3つ**を満たしています。

1 **定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地**
➔ ガンカモ類が該当

2 **水鳥の1種または、1亜種の個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地**
➔ スズガモ、カンムリカイツブリが該当

3 **生活環境の重要な段階において動植物種を支えている湿地**

登録認定証

干潟の役割

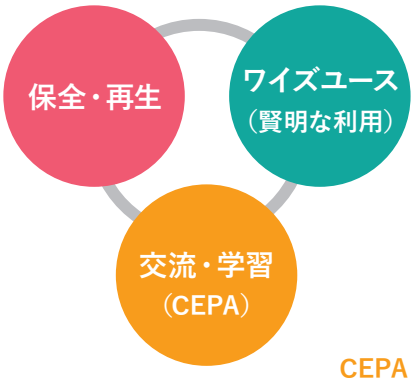
潮の満ち引きによって水没と干出を繰り返す沿岸域の砂泥地を干潟といいます。

太陽の光が届き、潮の流れによって栄養分が運ばれることから、プランクトンが豊富であり、それを餌とする貝やカニなどが砂や泥の中に生息しています。さらに、それらを捕食する魚や鳥などの様々な生き物も集まっています。自然豊かな干潟は、人々の生活に役立つ多くの役割を持っています。

- **潮干狩り、釣り、舟遊びなど、海辺の憩いの場**
- **貝や魚などの食料の供給**
- **貝などの生き物が水中の有機物を食べることによる水質浄化**
- **波浪を抑制し、海岸を保全することによる防災機能　　など**

ラムサール条約の特徴

ラムサール条約（正式名称：特に水鳥の生育地として国際的に重要な湿地に関する条約）では、様々な生き物の生息・生育地として重要な湿地を守っていくだけではなく、**ワイズユース**を進めていくことを奨励しています。また、その手段として、交流、能力養成、教育、参加、普及啓発を重視しています。



CEPA
Communication（広報）
Education（教育）
Public Awareness（普及啓発）

ワイズユース（Wise use＝賢明な利用）とは

湿地の生態系を損なわず、持続的に維持・利用していくことにより、また、産業や文化的利用により、人間生活を豊かにするとともに、次世代へと継承していくことを目指しています。

湿地とは

ラムサール条約では、「湿地とは、天然のものであるか人工のものであるか、永続的なものであるか一時的なものであるかを問わず、更には水が滞っているか流れているか、淡水であるか汽水であるか鹹水（海水）であるかを問わず、沼沢地、湿原、泥炭地又は水域をいい、低潮時における水深が6メートルを超えない海域を含む。」と定義しています。

葛西海浜公園のご案内

N
JR京葉線
葛西臨海公園駅
首都高速湾岸線
大観覧車
第一駐車場
第二駐車場(臨時)
第三駐車場(臨時)
AED
葛西臨海公園
葛西海浜公園
事務所
水族園
鳥類園
海風の広場
西なぎさ
案内所
西なぎさ
葛西海浜公園
東なぎさ
(環境保全のため立入禁止)
トイレ
多目的トイレ
釣り
バーベキュー
駐車場
AED

葛西海浜公園のご案内

開園時間帯

9:00〜17:00（時季により延長）

交通アクセス

交通

JR　JR京葉線「葛西臨海公園」駅下車　徒歩11分

水上バス　両国・お台場海浜公園から葛西臨海公園下船

都バス
1. 東京メトロ東西線「西葛西」駅から西葛20乙
2. 都営地下鉄新宿線「一之江」駅、
   東京メトロ東西線「葛西」駅から臨海28甲
   「葛西臨海公園」駅下車　徒歩12分

駐車場（葛西臨海公園駐車場）

TEL　03-3877-0725

住所　〒134-0086　江戸川区臨海町 6-2

営業時間　24時間営業

利用料金　普通車 1時間まで200円（以後30分毎に100円）
大型車 2時間まで1,500円（以後30分毎に500円）
※高額紙幣（一万円札、五千円札、二千円札）はご使用になれません。

注意事項
行楽シーズンの休日は駐車場が大変混雑し、
長時間お待ちいただく場合がございます。
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

問合せ先

葛西海浜公園サービスセンター

TEL　03-5696-4741

住所　〒134-0086　江戸川区臨海町 6-2-4

葛西海浜公園での主なできごと

江戸時代～明治・大正	**700年以上前に漁村が形成** 夏 アサリ・ハマグリ　冬 海苔（「葛西海苔」）
昭和20年代（1940年頃）	**台風被害** キャサリーン台風（昭和22年）、キティ台風（昭和24年） → 堤防整備（旧堤防：昭和27年、新堤防：昭和32年）
昭和30年頃まで（1950年頃）	**東京近郊の海のレクリエーションの場** 春 潮干狩り　夏 海水浴　秋 ハゼ釣り　冬 舟遊び
昭和30年代（1955年頃）	**環境悪化** 堤防の背後地で残土や廃棄物の投棄が多発
昭和30年代後半（1960年頃）	**漁業権の消滅** 漁業補償協定締結により漁業権消滅（昭和37年） 葛西漁港の指定取消（農林省）（昭和39年）
昭和40年代中頃（1970年頃）	**公害問題が深刻化** 地下水汲み上げによる地盤沈下が深刻化 昭和43年には1年で23cmの地盤沈下　178haの民有地が水没
昭和42年（1967年）	**自然保護に関する陳情** 「江戸前のハゼを守る会」、100万人の署名を集め葛西沖の保護を陳情 「新浜を守る会」が三枚洲の現状保存を求めて陳情（昭和45年） 「日本野鳥の会」も干潟保存と野鳥保護について陳情（昭和45年）
昭和44年（1969年）	**葛西沖開発の始動** 東京都、当該地の開発構想検討に着手 地下鉄東西線開通
昭和45年（1970年）	**海上公園事業スタート** 海上公園構想公表
昭和47年（1972年）	**埋立開始** 区画整理事業の施行開始
昭和54年（1979年）	**葛西海浜公園事業開始** 葛西海浜公園計画を告示 ※調査開始は昭和47年、人工なぎさ実験開始は昭和49年
昭和55年（1980年）	**葛西海浜公園の整備開始** 人工なぎさ導流堤施工着手（～昭和59年） なぎさ橋整備着手（～昭和63年）
昭和62年（1987年）	区画整理事業における埋立しゅん功 造成用土2億5千万㎥（霞ヶ関ビル50杯分）
平成元年（1989年）	**公園開園** 葛西海浜公園、葛西臨海公園、葛西臨海水族園 開園 江戸川区立のホテル（「シーサイド江戸川」）開業 水上バス運行開始
平成2年（1990年）	JR京葉線全線開業
平成3年（1991年）	「葛西沖地区」が第一回都市景観大賞を受賞
平成24年（2012年）	葛西海浜公園海水浴体験の取組が始まる
平成30年（2018年）	葛西海浜公園が都内初のラムサール条約湿地に登録

海上公園の紹介 Introduction

JR/山手線・京浜東北線
有楽町
東京
新橋
浜松町
汐留
田町
日比谷線
隅田川
N
大江戸線
有楽町線
東西線
日の出ふ頭
竹芝ふ頭
新交通ゆりかもめ
勝どき
月島
門前仲町
ふ頭公園
晴海ふ頭公園
レインボーブリッジ
晴海ふ頭
春海橋公園
豊洲ふ頭
豊洲
おだいばビーチ
お台場海浜公園
有明コロシアム
有明テニスの森公園
北緑道公園
シンボルプロムナード公園
潮見
辰巳の森海浜公園
辰巳の森緑道公園
辰巳
水の広場公園
りんかい線
有明西ふ頭公園
ーふ頭公園（休園中）
夢の島マリーナ
夢の島熱帯植物館
新木場公園
新木場
夢の島緑道公園
荒川
新木場緑道公園
JR/京葉線
側埋立地
定地
葛西臨海公園
葛西臨海公園
西なぎさ
葛西臨海水族園
区立若洲公園
（江東区所管）
葛西海浜公園
若洲海浜公園
東京ゲートブリッジ
東なぎさ

この地で生まれた海の文化を大切に守りながら
次世代に継承ができますように…。

こどもたちが身近に海を感じ
生き物に触れることができますように…。

自然の豊かさを守り育てられますように…。

葛西海浜公園は、「豊かな海を取り戻したい」という
地域住民の願いが込められています。

発行 平成30年11月
東京都港湾局臨海開発部海上公園課
東京都新宿区西新宿 2-8-1
TEL 03-5320-5578 FAX 03-5388-1577

印刷 株式会社シンソークリエイト
登録番号（30）16